

甚句

甚句習いにきや 湯山へこざれ

「ハーヨヤサノ サッサ」

湯山お杉さんは甚句の師匠だ

「ヨーイヤーサ ヨイトナ」

早く盆が来て 石に腰かけて

可愛い玉さんとチョイト語りた
恋で呼べない 手で招ねかれぬ

歌の文句で 知らせたチョイトい
歌は千ある 万ある中に

色気まじらぬチョイト歌はない
主は名剣 私は鑄刀

主が切れてもチョイト私は切れぬ
切れてしまえば、 ばらばらせんす

風のあたりもチョイトありやせぬ
遠く離れて 会いたい時は

月が鏡にチョイトなればよい
思い出しや タバコの煙り

遠くなるほどチョイト薄くなる

恋にこがれて鳴くセミよりも

鳴かぬホタルがチョイト可愛い

お前百まで私は九十九まで

友に白髪 of チョイト生えるまで
来たら寄りなよ おら家はここだ

寄れば湯も茶もチョイト酒も出す
可愛いお方に 草刈りさせて

鈴の鳴るたびチョイト出て見たい
可愛いお方が 草刈り行けば、

涼しい風吹けチョイト鎌切れる
お主見たさに 松原行けば

松の露やらチョイト涙やら
私今晚 声がかれました

情ある方チョイト音頭頼む
雨はどんどと 雨戸にさわる

心迷わすチョイト南風
雨は降り出す 大根干ぬれる

背中で子は泣くチョイトめしやこげる

雨の隣る日と 日の暮れ方は

思い出しますチョイト主のこと

お主1人と 定めたからは

ほかに気も無しチョイトイト主1人

高い山から 谷底見れば

瓜や茄子びのチョイト花盛り

咲いに桜に なせ駒つなぐ

駒が勇めばチョイト花が散る

月の出頃と 約束したが

月は昇出てチョイト森の影

声のかれたも 身のやつれたも

みんな主さんのチョイトためだもの

丸い卵も切り 切りよで四角

物も云いようでチョイト角が立つ

来にり来ないだり 夏堰の水

どうせ来ないならチョイト来ぬがよい

水の流れも 止めよで止まる

止めて止まらぬチョイト恋の道

恋の小ちようちん 谷間のホテル

思い付けたりチョイト消したり

前の石垣 崩れよとままよ

おらが踊りはチョイト崩しやせぬ

盆の13日が 2度あるならば

親の墓所へチョイト2度詣いる

盆の13に踊ら奴は

けつえねんぶつがチョイト百七つ

来るか来みかと 川下見れば

河原柳のチョイト影ばかり

お前一人か 連衆はないか

連衆後からチョイト駕籠来る

駕籠で来る様な 連衆じゃないが

足を痛めてチョイト駕題で来る

お前さんと寝て この目がなほりや

お前目医者かチョイト目薬か

盆が来になら 何着て踊る

笹の葉でも着てガッサガッサと踊る

盆が過ぎれば 七日も過ぎる

祭、十五夜にやチョイト雨が降る

鯉の滝のぼりや 何んと云うて登る

山を川にしようとしてチョイト云って登る

踊りおどらば 5人でも踊れ

踊りや三角でもやぐらは四角

ヨイヤサヨイヤサの 声聞く時は

ねむい目もさめチョイト気も勇む

一にや きのとの大日如来

二には 新潟の日山様よ

三にや さぬきの金比羅様よ

四には 信濃の善光寺様よ

五には 五泉の若宮様よ

六つにや 村上御天道様よ

七つ 長岡のさわ権現様よ

八つ 弥彦の一の宮様よ

九には 九神のづる権現様よ

十には 所のお鎮守様よ